

## 令和6年度事業報告書

### 事業の状況

弘前大学医学部附属病院（以下「附属病院」という。）における患者数の動向は、各店舗の利用者数に影響を及ぼす大きな要因の一つである。令和6年度の附属病院における外来患者数については、前年度と比較して若干の増加となっている。また、入院患者数については、新型コロナウイルス感染症による影響により低下していた稼働率が大幅改善されてきている。一方、患者以外の外来者としての大きな割合を占める面会者については、引き続き面会時間が午後の一定時間に制限されている。このような状況下での各店舗における利用者数は、前年度と比較してフランチャイズ店のローソンでは約1.7%増、ドトールコーヒーショップでは約4.6%増であったが、直営店の食堂では約0.5%減となった。

本年度の決算として、経常収益ではローソン、ドトールコーヒーショップでは店舗限定の企画や新商品等の宣伝の強化に努め、前年度と比較し、ローソンは、約6.1%、約1,635万円、ドトールコーヒーショップは、約11.6%、約588万円の増収となった。食堂では、原材料費、エネルギー費の高騰及び最低賃金の大幅な引き上げなどの影響を受け、値上改定を行ったことで約5.9%、約276万円の増収となった。薬局は、薬剤師の欠員などの影響などもあり処方箋枚数が335枚減り16,777枚となり、特に金額の高い薬品について処方数の減などの影響を受けたことで約3.9%、約3,185万円の減収となった。請負収益については、令和6年度から新たに5年間の委託事業を実施している附属病院構内駐車場等管理業務の当該年度の請負額を計上した。その結果、経常収益合計では昨年度に比べ約2.9%、約3,572万円増の約12億6,881万円となった。

経常費用では、売上に連動する各仕入費がローソン、食堂及びドトールコーヒーショップは増加し、薬局は減少した。修繕費は薬局の看板の修理や外壁工事等により約153万円増加した。支払負担金は、フランチャイズ店であるローソン、ドトールコーヒーショップの売上増収などに伴い約102万円増加した。退職給付費用は、国家公務員退職手当の支給割合を準拠していることから、それに合わせた改定を行い約553万円減少した。また、附属病院構内駐車場等管理業務の費用として、委託費をはじめ消耗品費などの関係経費を計上した。その結果、経常費用合計では昨年度に比べ約2.2%、約2,815万円増の約12億8,771万円となり、当期経常増減額では約1,889万円の費用超過となった。また、経常外費用として、令和6年4月の診療報酬改定により薬価の引下げに伴う棚卸資産評価損や法人税、住民税及び事業税の増加などによ

り合計で約165万円となり、最終的な当期一般正味財産増減額は約2,055万円の減少となった。

以上のように、本会の運営は非常に厳しい状況が続いているが、本年度も公益目的支出計画の達成のため、実施事業である「医学に関する研究の奨励及び助成事業」、「患者支援事業」、「学生に対する福利厚生事業」及び「患者等のための食堂事業」を行った。本年度の主な事業内容は、次のとおりである。

#### 【実施事業】

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 1. 医学に関する研究の奨励及び助成事業      | 18,350,000円   |
| ① 弘前大学における医学に関する研究助成      | (2,200,000円)  |
| 医学研究科臨床中央研究室への研究助成        |               |
| 医学研究科附属動物実験施設への研究助成       |               |
| 附属病院の診療技術向上に対する助成         |               |
| ② 医学研究科各講座学術集会の主催に対する助成   | (100,000円)    |
| ③ その他、医学振興・医療技術の向上へ寄与する助成 | (16,050,000円) |
| 附属病院の管理運営に対する助成           |               |
| 附属病院看護部に対する研究助成           |               |
| 学生用図書購入に対する助成             |               |
| 2. 患者支援事業                 | 530,182円      |
| 院内コンサート等の実施に対する協賛         |               |
| 附属病院内に観葉植物を配置             |               |
| 3. 学生に対する福利厚生事業           | 563,750円      |
| 弘前大学総合文化祭に対する助成           |               |
| 4. 患者等のための食堂事業            |               |

食堂事業においては、全国的な原材料費、エネルギー費、物流費の高騰及び最低賃金の大幅な引き上げなどの影響を受け、令和7年1月に価格改定を行った。また、通常メニューに加えて季節限定メニューやワンプレートランチの提供を行った。附属病院からの要望により令和7年1月から小児医療センター入院付添者限定の食事提供について協力を開始した。経費面においては、食材費の削減努力として、仕入価格を比較するなどして安価な仕入先業者の選定に努めた。

## 【病院内及び周辺における患者等に対する小売・サービス業】

### イ) 物品販売事業

ローソンが企画する様々なイベント等で発注数に上限がある場合は、ローソンの担当者と交渉し他店の2～3倍の数量を確保したこと、ボリューム感のある陳列方法や数量限定、期間限定というキーワードを活用して集客を図ったことなどにより売上増となった。当店独自の企画として、月替わりで毎週水曜日に店内厨房で作る特定の弁当等を100円引きで提供するなどの企画を引き続き行った。

また、SNSを利用して、商品やキャンペーン情報を得るお客様が増えてきていることから、新商品や来店時に利用できるクーポンの情報が得られ、催事予約等ができる「ローソンアプリ」の取得を勧めた結果、アプリの利用者が増加したことと催事の新規予約者の増加やヘビーユーザーの増加に繋がった。

### ロ) 外商事業

附属病院や患者等から要望のある衛生材料や健康食品等を取り寄せての販売をしており、令和6年9月から、栄養管理部からの要望に応じて肥満症治療のため食事療法で使用する食品の販売を開始した。また、がん治療患者の要望に応じて取扱商品を増やした。本会が附属病院の各病棟等に納品している洗剤、消臭剤等の消耗品の販売を継続して行った。

自動販売機設置運營業務委託事業については、売り切れを防ぐため、引き続き、適時販売状況の確認を行い、必要に応じて補充や自動販売機の維持管理を実施するとともに、環境美化にも努め快適な利用環境を維持し、売上の増加に努めた。

### ハ) 薬局事業

薬局においては、令和6年6月の調剤報酬改定により「地域支援体制加算」の要件が強化されたことにより、「地域支援体制加算2」の要件を満たさなくなったが8月までは経過措置により算定することができた。令和7年2月からは「地域支援体制加算1」の要件を満たすことができ算定を開始した。

電子処方箋の体制整備やマイナ保険証の利用率向上に努めたことで、「医療DX推進体制整備加算」を算定することができ、令和6年10月からは加算の見直しがあり上位区分の要件を満たすことができた。さらに、選定療養（後発医薬品があるにも関わらず先発医薬品の処方を希望する場合には患者が特別な料金を支払う制度）

が始まったことにより、後発医薬品の調剤比率が伸びており新たな加算の算定要件を満たせるよう努めた。

二) 喫茶事業

ドトールコーヒーショップにおいては、附属病院で業務に従事している弘前大学職員の他、院内で業務を行っている外注業者等も値引き販売の対象者に加え、販売数の増加に努めた。また、休憩時間や帰宅時に商品を受け取れるよう、事前に電話で予約できることの周知を強化しスムーズな対応で利便性をアピールした。

新規顧客を増やすため、外来患者やお見舞い等で来院される方に営業時間の案内を店舗内数か所に掲示し、待ち時間や待ち合わせ場所としてご利用いただけるようアピールを強化し、利用者の増加に努めた。

ホ) 駐車場事業

附属病院構内駐車場等管理業務については、5年契約の1年目となっており、仕様書に基づき事業の実施に当たるとともに、来院者が安心して利用できるよう優しく親切丁寧な誘導に努め、車椅子等利用者の誘導については、利用者の安全かつスムーズな入退車に配慮した。